

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 安来市立赤屋小学校 ～

1. 概要

9月1日(火)、安来市立赤屋小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。まず、はじめに赤屋小学校周辺や安来市の遺跡について、県埋蔵文化財調査センターの職員から話を聞きました。その後は、体験活動として「土器作り」を希望されていたので、安来市・松江市内の遺跡から出土した本物の土器や石器を観察し、触れてみて、古代の人々の技術の高さや、芸術的感性などについて理解を深めました。

次に、いよいよ「土器作り」に取りかかりました。まず素材の粘土をほぐし、柔らかくする工程ですが、普段粘土に触れることのない子ども達にとってはここからすでに苦戦です。底部にする円形粘土板を作り、その上に紐状にした粘土を巻き付けていきます。ここで粘土の継ぎ目を丁寧にナデ消すことがポイントです。そして、粘土紐を高く積み上げると粘土自体の重さでせっかく積み上げた土器が崩れたりするので、下部分の補強をしながら積み上げます。苦勞して土器の形が作り上げられると次は文様を付ける作業です。縄文や貝殻を使って自分だけの文様を付けると喜びと達成感が生まれました。

土器は一万年以上前から作られ、現代でも使われ続けています。そのような身近な土器であっても、短時間ではなかなかきれいに仕上げることが難しいことを知り、私たちの先祖の高い技術力を体感することが出来ました。

2. 様子

赤屋小学校：土器作り体験



3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・赤屋にたくさん遺跡や古墳があったことに驚いた。また、どんな人々がいたのかもっと知りたいと思った。
- ・安来に鉄作りの遺跡(たたら)がたくさんあり、鉄を大量に作っていたことを知れた。
- ・もっと古墳や土器について知りたいと思った。
- ・粘土が思ったよりも堅くて、最初は自由に形を整えることが難しかった。だんだん土器の形が出来てきた時はうれしくて心に残った。
- ・別の素材でもやってみたい。ほかにも、勾玉作り・鏡づくりなども体験してみたい。
- ・むかしの他の手作りの道具にはどんなものがあるのか興味をもった。

2) 担任の先生から…

- ・地域に古墳やたたらなどの遺跡があることを知れた。
- ・土器や石器の本物に触れることができてよかった。
- ・知識を得たうえで、土器作り体験ができたのでよかった。
- ・今年度は新型コロナ対策で学校行事が縮小傾向な中、久しぶりのイベントで子どもたちが嬉しそうに製作に集中していた。

3) 埋文センターから

学校の社会の授業で既に平安時代まで勉強していたことから、縄文時代～平安時代について皆さんよく知っていて、興味を持って聞いてくれました。また、赤屋小周辺にはたたらや古墳をはじめ遺跡が多数分布しているので、地元の文化財・歴史にも関心が高い様子でした。

土器作り体験では、はじめて粘土を使って、自分が思うような形が作れず苦戦していましたが、何回か挑戦して次第に形を整えていくことができたようです。体験活動を通じて古代人の生活の一端に触れ、当時の人々の熟練した技術や作り手の思いを一層強く感じることができました。